

## I. 18世紀の鍵盤楽器とピアノ

ピアノは、ヨーロッパ音楽の歴史全体から見れば、新しい楽器である。ピアノ以前の、長い、豊かな鍵盤楽器音楽の伝統があって、はじめてピアノは生まれた。

そしてピアノが生まれたあと、他の鍵盤楽器がすぐに忘れられてしまったわけではない。一八世紀の前半といえば、ドイツではバッハの時代だが、フランスではクーランやラモーが、イタリア、スペインではスカラッティが活躍していた時代で、次々にオルガンやチェンバロの名曲が生まれていた。

ピアノはこれら三つの鍵盤楽器[オルガン、チェンバロ、クラヴィコード]につづけて新しく開発された、「第四の鍵盤楽器」と言うことができる。

指先でピアノ(弱音)とフォルテ(強音)を自在に表現できる、ハンマーで弦をたたく鍵盤楽器、というアイデアはかなり以前からあったが、実現するのは技術的になかなか難しく、現実化していくのはクリストーフオリ以降ということになる。



**クリストーフオリ, バルトロメオ**  
*Cristofori, Bartolomeo (1655-1731)*

・イタリアの鍵盤楽器製作者、設計者。1690年以後メディチ家のフェルディナンド公のフィレンツェの宮廷に仕え、1713年同公の死後も楽器の管理人としてとどまった。

(ニューグローヴ世界音楽大事典)

バロックの時代は、鍵盤楽器音楽の黄金時代だった。そのバロックの最盛期に生まれた楽器、ピアノは、しばらくは長い伝統のある他の鍵盤楽器と並行して使われていくことになる。

バロック時代まで、つまり1750年ごろまでは、オルガン、チェンバロ、クラヴィコードという三つの鍵盤楽器が広く使われていた。この三つは、発音原理は異なっているが、鍵盤はどれも基本的には同じ配列になっているので、五線譜でならどの楽器でも弾くことができる。

ドイツ語でクラヴィーアと言えば、現在ではピアノのことだが、バロック時代までは鍵盤楽器の総称で、当時の音楽家は「音楽の場」やそのときの目的によって、さまざまなクラヴィーア、オルガン、チェンバロ、クラヴィコードを使い分けていた。

・クリストーフオリが楽器を考案したのは「1709年」よりかなり前、1700年以前ということが最近わかっている。

・クリストーフオリは、「現在のピアノの原型」とも言うべき楽器を考案・設計し、実際に製作した楽器も残っている。ピアノの歴史にとって彼の作った楽器の意義は画期的で、彼を「ピアノの原型の発明者」と呼んでいいと思う。

・しかし、このときのピアノと「現在のピアノ」には大きな違いがあり、そもそも彼の発明がその後のピアノ、つまり「現在のピアノ」を準備したと言っているのかどうか、むずかしい。

(ピアノはいつピアノになったか? 第1講 ピアノの誕生 / 松本彰)

ハーブシコード *harpsichord* (英) クラヴサン *clavecin* (仏) チェンバロ *cembalo* (伊)

- たくさんの弦を張ってそれをはじくことによって音を出す。
- 原理上、指先で鍵盤をいくら強く押してもほとんど強弱がつかない。
- 大きなものには3セットの弦が張ってあって、音色や音量を変化させることができる。  
(ピアノはいつピアノになったか? 第1講 ピアノの誕生 / 松本彰)



クラヴィコード *clavichord* (英)

- 鍵の後端に「タンジェント」と呼ばれる真鍮片がついていて、鍵を押すと、その金属片が弦をたたいて音を出す。
- タッチの強さと速さが直接弦に伝わるので、微妙な音色の変化も意のままとなる。
- 音が出ている間、弦に触れているタンジェントに指の振動を伝え、ヴィブラート(ペーピング)をかけることができる。
- 感情表現をダイレクトに弦に伝えることができるが、音量が小さいため、プライベートな空間での演奏に限られる。  
(ピアノの歴史: カラー図解 / 小倉貴久子)



ピアノ *piano* (英、仏、伊) *pianoforte* (英、仏、伊) *Klavier* (独)

- 跳ね返ることのできるハンマーで打弦される鍵盤楽器。
- 打弦したハンマーは即座に跳ね返る仕組みであり、弦をはじくハーブシコードや弦を打つタンジェントが弦に接触したままになるクラヴィコードとは区別される。

現在の名称のピアノ *pianoforte* は……

強弱の出せるハーブシコード (*gravicembalo col piano e forte*) を短縮したもの。

フォルテピアノ *fortepiano* とは…

18世紀および19世紀初めのピアノを、20世紀のピアノと区別するために用いる言葉。ドイツの著述家は同じ意味で「ハンマークラヴィーア *Hammerklavier*」や「ハンマーフリューゲル *Hammerflügel*」という言葉を用いることもある。

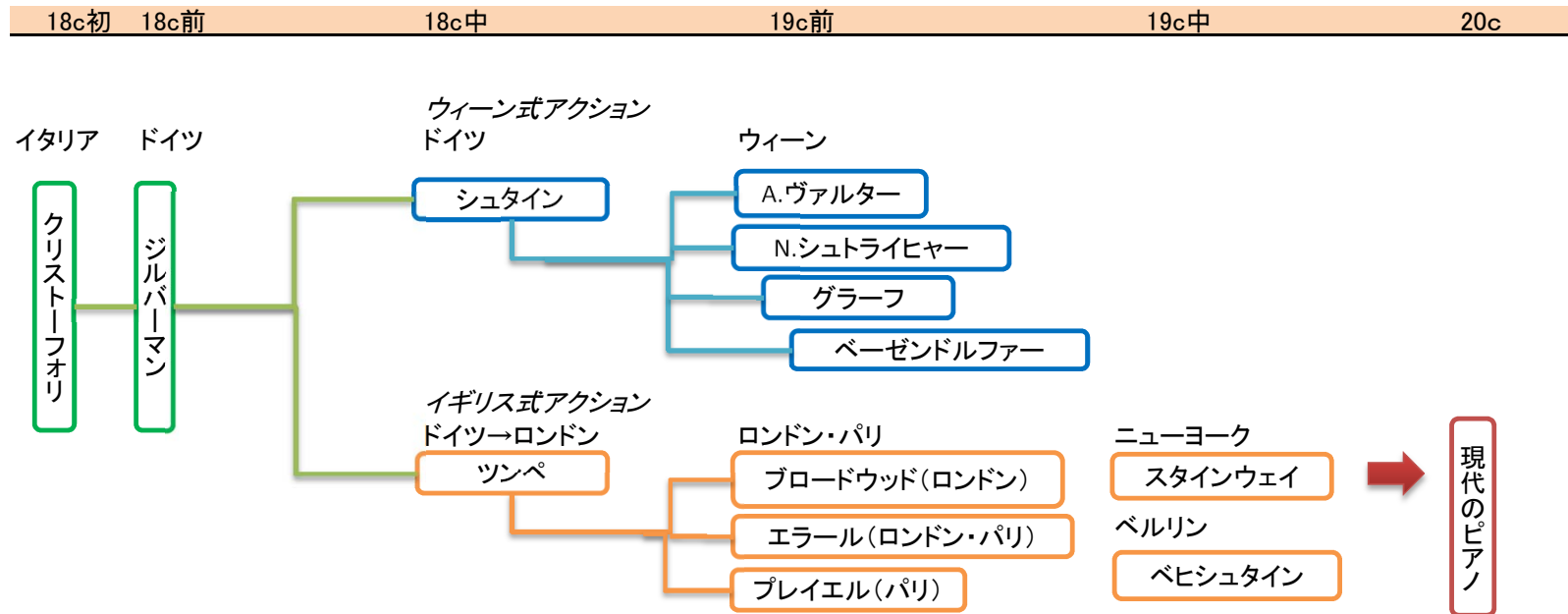
(ニューグローヴ世界音楽大事典)



クリストーフォリ作成のピアノ  
(メトロポリタン博物館所蔵 1720年製)

## II. ピアノ製作の2大潮流

クリストフォリのピアノのアクションは、ピアノの原型といえる完成度をもっていたという点で画期的なものだった。それはイタリアやスペインの製作家に継承され、さらにドイツを経て、18世紀後半から19世紀を通してイギリスとドイツ・オーストリアでそれぞれ独自の発展を遂げる。



(ビジュアルで楽しむピアノの世界)

### III. 主な楽器製作者

#### シルバーマン、ゴットフリート *Silbermann, Gottfried (1683-1753)*

- ・オルガン製作の傍らチェンバロ、クラヴィコード、フォルテピアノの製作にも携わる。
- ・1730年代にはフォルテピアノの製作を手がけている。しかし、そのフォルテピアノはJ.S.バッハから「タッチが重く、高音が弱い」と批判されてしまった。その後、1745年頃には改良を重ねた楽器がフリードリヒ大王にも賞賛され、何台もの注文を受けたという記録が残っている。
- ・J.S.バッハは1747年、フリードリヒ大王所有のシルバーマン製のフォルテピアノに満足して、王の提示したテーマによる3声のリチェルカーレを即興演奏し、後に曲集《音楽のささげもの》にまとめた。

#### シュタイン、ヨハン・アンドレーアス *Stein, Johann Andreas (1728-1792)*

- ・クリストフ・フォリ=シルバーマン式アクションをより軽くして、奏者のタッチの表情がダイレクトに伝わるアクション\*を新たに開発した。

\*後に「ウィーン式アクション」と呼ばれるはね上げ式のシステム。  
シュタインが発明者であるかどうかは不明とされているが、完成させた人物として知られている。

#### シュトライヒャー、ナネット *Streicher, Nanette Stein (1769-1833)*

- ・ヨハン・アンドレーアス・シュタインの娘。
- ・1802年に兄のマテウス・アンドレーアス・シュタインから独立してピアノ製作を始めた時、シュトライヒャーのピアノ製作会社を創立。  
(ニューグローヴ世界音楽大事典)

#### ヴァルター、アントン *Walter, Anton (1752-1826)*

- ・18世紀末、最も人気のあった製作者。
- ・シュタインの楽器から引き継いだアクションの軽いタッチと、明快なイントネーションが可能な歯切れの良さに加えて、奥行きのある豊かな音色が魅力。

#### グラーフ、コンラッド *Graf, Conrad (1782-1851)*

- ・ウィーン式のピアノがもつ伝統を職人的に守り継ぎ続けたウィーン宮廷ピアノ製作者。

#### ベーゼンドルファー、イグナツ *Bösendorfer, Ignaz (1796-1859)*

- ・名高いピアノ製作者、J. ブロートマンの下で修業し、1828年に自分のピアノをつくり始める。59年に息子のルードヴィヒが後継者となり、ウィーン式アクションにこだわり製作をつづけた。

(ピアノの歴史 / 小倉貴久子)

ベートーヴェンが生まれた1770年ごろを境にピアノの技術革新が急速に進むようになる。  
その大きな節目となるのが1753年のゴットフリート・ジルバーマンの死と七年戦争[1756-1763]である。

ジルバーマンの徒弟であったヨハネス・ツンペは1760年、戦争の動乱をさけてロンドンに渡った。  
ツンペは、この時ともにロンドンに渡った十二人のピアノ製作者の一人で「十二使徒」と称されたかれら  
の中では、もっとも優れた人物であった。  
(ピアノの誕生 / 西原稔)

#### **ツンペ, ヨハネス Zumpe, Johannes (1735-1783活躍)**

- ・スクエア・ピアノの生産販売業で成功した。
- ・現存するツンペのスクエア・ピアノのなかで最も古いものには、1766年の日付がある。このピアノの音域は  $G_1-f^3$  (ほぼ5オクターヴ)。
- ・J.C.バッハはツンペのスクエア・ピアノを50ポンドで購入し、1768年

#### **ブロードウッド, ジョン Broadwood, John (1732-1812)**

- ・チェンバロ製作者シューディの下で修業したのち、1782年にブロードウッド社を設立。
- ・ツンペ製をモデルにスクエア・ピアノの製作を始め、システムに数々の工夫を加え、翌年には手や膝ではなく足先で操作するダンパー・ペダルなどを発明し特許を得た。

#### **エラール, セバスティアン Erard, Sebastian (1752-1831)**

- ・フランス革命(1789年)の勃発とともに、パリを離れ、ロンドンに難を逃れることを余儀なくされる。
- ・彼は新しい装置を次々と開発して十九世紀のピアノ文化の基礎を築くことになる。
- ・最も重要なのは1823年に完成させたダブル・エスケープメントという装置である。これによって急速な同音連打が可能になったばかりか、名人芸的な急速なパッセージをも自由にできるように

#### **プレイエル, イグナス Pleyel, Ignace (1757-1831)**

- ・イグナス・プレイエルはハイドンに師事し、ストラスブール、ロンドンで活躍し、作曲家としてだけではなくピアノのヴィルトゥオーソとしても名を馳せた。
- ・かれは1807年、パリで楽器製造業をはじめ、その事業は息子のカミーユに引き継がれ、その活動は1970年まで続いた。

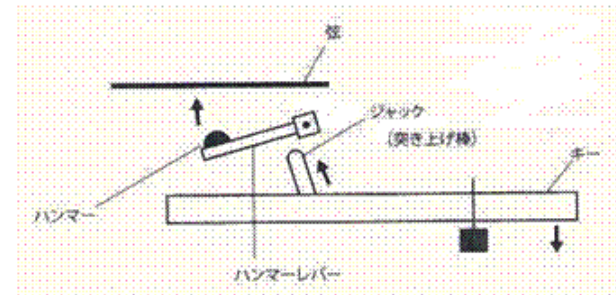
## IV. イギリス式、ウィーン式の特徴

- ♪ウィーン式は軽やかなタッチと透明かつ繊細な音色、イギリス式はタッチも響きも重厚と、それぞれ特徴と持ち味が異なる。
- ♪やがて時代とともにピアノの音域は広がり、より大きな音量を求めて、ハンマーが大きくなり、張力の増した弦を支えるために鋳物が導入されていく。
- ♪そんな時代の要請に対して、ウィーン式は構造上の限界があり、20世紀初頭には事実上消滅、最終的にイギリス式が現代のピアノへと発展していったのである。

(ビジュアルで楽しむピアノの世界)

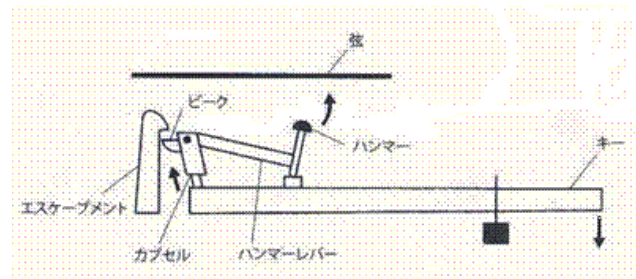
### <<イギリス式アクション>>

- 鍵盤を押し下げると突き上げ棒(ジャック)が上がり、ハンマーレバーを押し上げて、ハンマーを動かし、弦を打つ。
- タッチは重く、鍵盤は大きく沈み、音量が大きく、重厚な和音を奏することができる。
- 強固さをもっているため、雄弁に音楽を語るのに適している。



### <<ウィーン式アクション>>

- 鍵盤を押すとカプセルが上がり、ハンマーレバーの端についているピークという部品がエスケープメントの先のくぼみで押えられているために、その反動でハンマーが跳ね上がって弦を打つ。
- ハンマーはイギリス式アクションとは逆の方向についている。
- ハンマーが小さく、鍵盤の深さも浅い(約5mm)ので、軽快で明るい音色を持っていて、流麗なパッセージ、同音反復、トレモロ、急速なトリルを奏するのに向いている。



(ピアノを読む / 岳本恭治)



## V. ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンと楽器

18世紀の後半のウィーン古典派の時期は、ハープシコードやクラヴィコードからピアノフォルテに移行してゆく、鍵盤楽器の過渡期にあっていた。この半世紀に、ピアノフォルテは発明と改良をくわえ、ゆっくりと実用化されていったのである。その過程は、ハイドン、モーツァルト、そしてベートーヴェンらのクラヴィーア作品に反映している。

(ピアノの歴史 新版/大宮眞琴)



ハイドン, ヨーゼフ Haydn, Joseph (1732-1809)

- 1788年、ハイドンはシャンツのスクエア・ピアノを手に入れ大変気に入る。
- 1791年、第1回目のロンドン滞在中、デュセックに借りたブロードウッドのピアノの性能に感心し、その魅力に感銘を受けたハイドンは、4年後のロンドン再訪の折に、ロングマン&ブロデリップの5オクターヴ半のピアノを購入し、ウィーンに持ち帰った。
- 晩年には1801年につくられたエラールのピアノも所有しており、イギリス式ピアノの可能性を評価していた。

(ピアノの歴史 / 小倉貴久子)



モーツァルト, ヴォルフガング アマデウス Mozart, Wolfgang Amadeus (1756-1791)

- 1777年10月、いわゆるマンハイム=パリ旅行の途次、母と二人で父の郷里アウクスブルクを訪ずれたモーツァルトは、到着して何日も経たないうちに、きわめて貴重な体験をする。天才的な鍵盤楽器作家ヨハン・アンドレアス・シュタインとの --否-- 彼の製作したピアノフォルテとの邂逅がそれである。
- 1782年か83年にヴァルターのピアノを購入しているが、それは1781年頃に製作された中古品であった。

(チェンバロ・フォルテピアノ / 渡邊順生)



ヴァルター 1780年製  
(モーツァルト生家、ザルツブルク)



ベートーヴェン, ルートヴィヒ・ヴァン *Beethoven, Ludwig van (1770-1827)*

ベートーヴェンの生きた時代は、ピアノという楽器が最も急激な変化を遂げた時代であった。  
一人の作曲家が、自らの演奏する楽器についてその生涯にこれほど大きな変化を経験するというのは、ほかにほとんど例を見ないことである。



ブロードウッド 1815年製  
(ブダペスト古典楽器博物館  
所蔵)

・ウィーンへ出てからのベートーヴェンは、シュタインの楽器に比べるとよほど堅牢で音量も大きなアントン・ヴァルター(1752-1826)のピアノを好んだ。

(ピアノはいつピアノになったか? / 伊東信宏編)

・1803年、パリのエラール兄弟は、イギリス式アクションをもつ五オクターヴ半( $F_1-c^4$ )のピアノをベートーヴェンに贈った。

・1818年に、ブロードウッドから六オクターヴの音域( $C_1-c^4$ )の新しいピアノを寄贈されたベートーヴェンは大いに感激した。  
[CD93-330の演奏にはこの楽器が使われている]

・1825年に、彼はコンラート・グラーフから六オクターヴ半( $C_1-f^4$ )の特別製のピアノの提供を受けた。このピアノには、少しでも大きな音が出せるようにと、 $C\#-f^4$ の各鍵に対し四本もの弦が張られていた。  
[CD93-781の演奏にはこの楽器が使われている]

(チェンバロ・フォルテピアノ / 渡邊順生)



エラール 1803年製  
(芸術史博物館、ウィーン 所蔵)



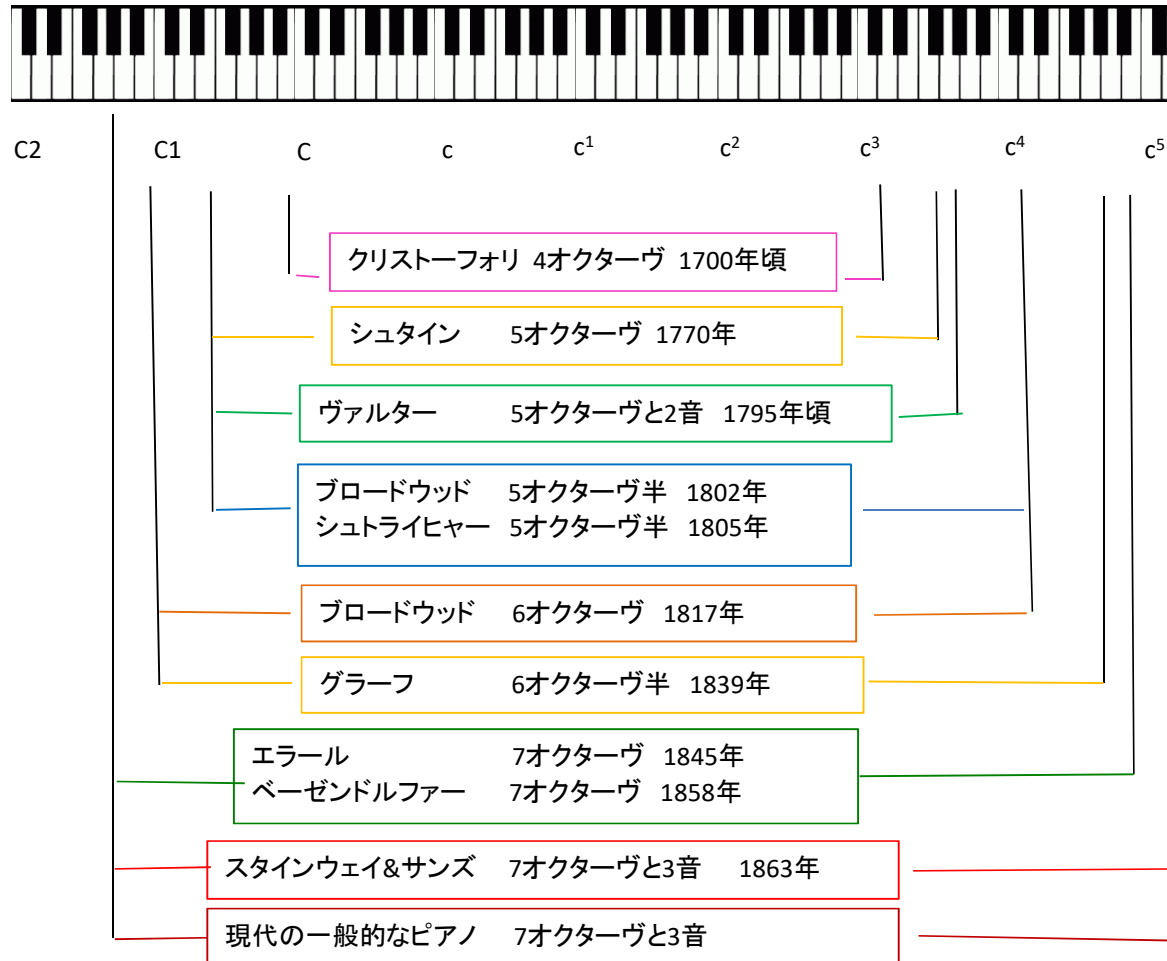
グラーフ 1824~25年製  
(ベートーヴェンハウス、ボン  
所蔵)



## VI. 鍵盤と音域

(「ピアノの歴史 / 小倉貴久子」に基づく)

現代の一般的なピアノは、7オクターヴと3音の88鍵。  
300年前にピアノが生まれたときの音域は、4オクターヴの49鍵盤だけだった。



## VII. 主な楽器博物館

★各博物館をクリックするとWEBサイトにリンクしています

### 上野学園 古楽器コレクション

17・18世紀のヨーロッパ音楽を楽器の面から研究することを目的として収集。

コレクションは弓奏弦楽器のヴィオラ・ダ・ガンバ、ヴィオラ・ダモーレ、撥弦楽器のリュート、マンドール、ハーブが中心だが、その後歴史的観点からも重要な鍵盤楽器・管楽器・打楽器が付加されて今日に至っている。

### 国立音楽大学楽器学資料館

音楽研究に必要とされる楽器に関する資料を整えるという楽器学資料館の方針に基づき、名器・骨董的価値よりも地域・年代に片寄りのない系統的な楽器の収集を基本としている。世界各地の楽器、約2,400点を所蔵。また楽器の展示公開・保全・修復、調査・研究および資料集の制作、講座・ワークショップ・コンサート等を実施している。

### 民音音楽博物館

古典ピアノ室では16世紀から20世紀にわたるチェンバロや古典ピアノ、そして現代のピアノの音色を楽しむことが出来る。

### 武蔵野音楽大学 楽器博物館

#### 江古田キャンパス

2019年度リニューアルオープン。その準備のため休館中。  
[2019年3月10日現在]

#### 入間キャンパス

江古田キャンパス楽器博物館の開館準備のため、休館中。

#### パルナソス多摩【楽器展示室】

テーマに基づく系統的展示を、半年毎に企画展として公開している。

### 大阪音楽大学 音楽資料館

所蔵楽器など約2,000点のうち、1,400点を常設展示している。

展示室は、日本の伝統楽器、ヨーロッパの楽器、世界各地の楽器の3つの部屋に分かれている。

ヨーロッパの楽器展示では、モーツァルト、ベートーヴェン、シューベルト、ショパン、リスト、ドビュッシーらが創作活動を行った時代様式のオリジナル・ピアノを見ることができる。

### 浜松市楽器博物館

楽器実物資料3300点(ヨーロッパ1750点、アジア630点、オセアニア160点、アフリカ230点、アメリカ200点、日本330点)を所蔵している。  
第3展示室にはヨーロッパの鍵盤楽器を展示している。



## VIII. 作曲家紹介 (五十音順)

・紹介記事はニューグローヴ世界音楽大事典を引用しています。

### クラマー, ヨハン・バプティスト *Cramer, Johann Baptist* (1771-1858)

作曲家、ピアニスト、出版業者。当時の有名なピアノ演奏家として、自らの演奏と作品によってピアノ独自の様式の形成に大いに貢献した。彼の演奏は19世紀初頭のピアニストに深い感銘を与え、その影響は数世代に及んだ。リースによれば、ベートーヴェンさえも彼を当代随一のピアニストと認めていたらしい。

有名な84曲のピアノ練習曲は、〈ピアノのための練習曲 Studio per il pianoforte〉のタイトルの下、1804年と10年におのおの42曲の練習曲集として出版された。これは、今日に至るまでピアノのテクニックの基礎を築くものとされている。

### クレメンティ, ムツィオ *Clementi, Muzio* (1752-1832)

イタリア生まれのイギリスの作曲家、鍵盤楽器奏者、教師、楽譜出版者、ピアノ製造者。

次世代のピアニストやピアノ作曲家に対するクレメンティの影響には絶大なものがあった。ベートーヴェンの初期の鍵盤楽器作品は、間違いなくクレメンティの1780年代および90年代の音楽から多くを学んでいる。また、クレメンティは1820年代と30年代に活躍した何人かの名ピアニストの主たる教師であり、ほかにもエルツやマイヤーベーア、ドゥセク、そしておそらくフンメルなど多くの音楽家の形成期に何らかの形でピアノを教えていた。

### ゲリネク, ヨーゼフ *Gelinek, Joseph* (1758-1825)

チェコの作曲家、ピアニスト、ピアノ教師。

モーツァルトやハイドンと個人的な交流があったばかりでなく、若きベートーヴェンとも友人であった。

ゲリネクの作品の大部分はピアノ変奏曲で、基になる旋律は舞台用作品(グルック、パイジエッコ、モーツァルト、サリエーリなどによる)、器楽作品(ベートーヴェンの交響曲第7番第2楽章)、ウィーンの民謡、自作の主題などから採られている。

### コジェルフ, レオポルト *Kozeluch, Leopold* (1747-1818)

ボヘミアの作曲家、ピアニスト、音楽教師、出版業者。

コジェルフは、18世紀のウィーンにおけるチェコ音楽の第一人者であった。ピアニストおよびピアノ教師としての彼の影響力は大きく、特徴的なピアノ様式を發展させ、またピアノを好みチェンバロの使用を減らすことに寄与したために、同時代人の彼に対する評価はつとに高かった。

### チマローザ, ドメニコ *Cimarosa, Domenico* (1749–1801)

イタリアの作曲家。モーツァルトと同様に多作家であり、多くのオペラ、教会音楽等を残しているが、鍵盤楽器の為の作品の存在を知る人は、余りいない。88曲のソナタの自筆譜は、残念ながら現在まで見つかっておらず、全て写譜の形である。81曲からなるフィレンツェの写譜本の表紙には、フォルテピアノの為のソナタ集と記されており、チェンバロではなく完全にフォルテピアノを念頭においてチマローザは作曲したのであり、数少ない貴重な作品とみてよいであろう。[チマローザ ピアノ・ソナタ集1/ 関孝弘注解]

### ドゥセク, ヤン・ラジスラフ *Dussek, Johann Ladislaus* (1760–1812)

ピアニスト、作曲家。フランス革命のときにドゥセクはイギリスに逃れた。彼は以後11年間ロンドンで過ごし、ピアノ教師として非常に有名になる。

彼は**ブロードウッド**社にピアノの音域を広げるよう働きかけ、同社は[17]91年には5オクターヴから5オクターヴ半、94年に6オクターヴに音域を広げた。この音域の広い鍵盤のために書かれた曲は「追加鍵盤付きピアノ」のためといわれた。

### バッハ, ヨハン・クリスティアン *Bach, Johann Christian* (1735–1782)

ヨハン・ゼバスティアン・バッハの息子。18世紀後半の最も多作な作曲家の一人。モーツァルトに一人の作曲家としては最も重要な影響を与えた。C.F.アーベルとともに、ロンドンにおける定期的な公開演奏会の確立に重要な役割を果たした。

1786年6月2日にヨハネス・ツンペ製の楽器を用いて、「ピアノフォルテによる独奏曲 Solo on the Piano Forte」を演奏した。ロンドンでピアノが独奏楽器として公に用いられたのは、明らかにこれが最初であった。

### フィールド, ジョン *Field, John* (1782–1837)

アイルランドの作曲家、ピアニスト。

彼は、後にショパンにより全盛を極めたロマン派ピアノ演奏技術の重要な一派の創始者である。

フィールドの作品には全部ピアノが含まれており、それらはすべて自分の演奏用に書かれたと考えられる。おそらく彼は多くの細かい部分を、演奏時のインスピレーションにゆだねたのであろう。彼の作品の多くは、2つもしくはそれ以上続く版の形で残されている。

### フス, ヤーノシュ *Fusz, Janos* (1777–1819)

ハンガリーの作曲家。1790年代までには、ピアニストおよびオルガニストとしての評判を得た。

その後フスは、アルブレヒツベルガーに師事するためにウィーンに移った。また、ハイドンとの親交も深めた。

室内楽曲で最も重要な作品は、ヴァイオリン・ソナタop.36と、ヴァイオリンとピアノのための6曲のソナティーナop.4である。また歌曲集も4冊出版された。これらの作品の多くはドイツ的な傾向が強く、それゆえにフスは、19世紀初頭のハンガリー音楽におけるドイツの伝統を代表する重要な音楽家と見なしてよいであろう。

### **ブラスコ・デ・ネブラ, マヌエル *Blasco de Nebra, Manuel* (1750-1784)**

スペインのオルガニスト、作曲家。セビーリャ大聖堂のオルガニストとして生涯を終えており、早くも1770年にはこの地位にあったと思われる。存命中は、その見事な初見演奏の能力と、オルガン、チェンバロおよび発明されてまもないピアノにおける、表現力豊かな演奏で知られていた。ブラスコは170曲もの作品を残した多作家であったが、今日現存しているのは<チェンバロおよびフォルテピアノのための6つのソナタ>Op.1のみである。これは非常に高度な技術を要する作品で、鍵盤楽器奏者としての彼の技量をしのばせるものである。

### **プレイエル, イニャース *Pleyel, Ignaz* (1757-1831)**

フランスで活躍したオーストリアの作曲家、楽譜出版家、ピアノ製作者。彼の作品は欧米で広く愛好された。1795年初頭にプレイエルはパリに移住し楽譜店を開き、出版社を設立して、ボッケリーニ、ベートーヴェン、クレメンティ、クラマー、J.L.ドゥセク、ハイドン、その他プレイエルおよび彼の息子の友人の作品など、約4000曲を出版した。プレイエルの音楽が彼の存命中に絶大な人気を得ていたことは、当時の雑誌、あるいはゲルバーやフェティスといった当時を知る人が編纂した事典の記述にうかがえる。

### **フンメル, ヨハン・ネーポムク *Hummel, Johann Nepomuk* (1778-1837)**

オーストリアのピアニスト、作曲家、教師、指揮者。存命中はヨーロッパ最大の作曲家の一人と評され、またおそらく最高のピアニストであった。フンメルの教授法はピアノ教程《ピアノ奏法の理論と実践詳論 Ausführlich theoretisch-practische Anweisung zum Piano-forte Spiel》に要約されている。1828年の出版と同時にたちまち数千部が売れたといわれているが、後期のウィーン奏法、特に装飾法についての最も重要な情報源である。

### **ボエリ, アレクサンドル・ピエール・フランソワ *Boely, Alexandre Pierre Francois* (1785-1858)**

フランスの作曲家、オルガニスト、ピアニスト。ほとんど独学で音楽家の道を歩んだボエリは、過去の巨匠の作品を日々研究することによってその才能と判断力を磨いた。当時にしては卓抜した対位法の知識を身につけており、フランスにバッハの音楽を紹介した最初のオルガニストの一人である。彼のピアノ曲は、ピアノという楽器が18世紀に端を発し、エラールとプレイエルの研究を経て、アップライト、スクエア、ペダル、グランドと多様な形をとってきた発達の過程を反映している。

### **ホフマン, エルンスト・デーオドル・アマデーウス *Hoffmann, Ernst Theodor Amadeus* (1776-1822)**

ドイツの作家、作曲家。彼は才能ある画家でもあり、幾つかの優れたスケッチと戯画を残している。彼の個性と才能は、ロマン主義に独特の色合いを与え(もっともいづれか強烈すぎるくらいはあるが)、何世代かにわたって画家、作家、作曲家に影響を与えた。

## IX. 演奏家紹介 (五十音順)

・ 紹介記事は下記の資料を引用しています。

[E] = 演奏家大事典 (音楽鑑賞教育振興会, 1982)

[N] = ニューグローヴ世界音楽大事典

[I] = International who's who in classical music (Routledge, 2010)

---

### アレクサンダー=マックス, スーザン *Alexander-Max, Susan*

アメリカ生まれのピアニスト。[CD23-448解説]

---

### イングリッシュ, ケンプ *English, Kemp*

ニュージーランドのオルガニスト、ピアニスト、フォルテピアノ奏者。[CD42-105解説]

---

### インマゼール, ジョス ファン *Immerseel, Jos van (1945-)*

ベルギーのハープシコード、フォルテピアノ奏者。1985年にバロック・オーケストラ「アニマ・エテルナ」を創設。[N]

<http://www.animaeterna.be/>

---

### ウィリス, アンドリュー *Willis, Andrew*

アメリカのピアノ奏者。歴史的鍵盤楽器およびピアノの独奏者、室内楽奏者として知られる。アメリカ、ノースカロライナ大学グリーンズボロ音楽学部准教授。[CD34-073/077解説]

---



### 上尾直毅 *うえお, なおき*

チェンバロ、クラヴィコード、フォルテピアノ、オルガン、ミュゼット奏者。1992年アムステルダム・スウェーリンク音楽院に入学し、チェンバロを故グスタフ・レオンハルト、アンネッケ・アウテンボッシュの両氏に師事し、95年ソリストディプロマを得て卒業。[下記ホームページ]

<http://cembalo.g1.xrea.com>

---

### ヴォデニチャロフ, ボヤン *Vodenicharov, Boian (1960-)*

1960年生まれのピアニスト。ヨーロッパを中心に世界各国で演奏し、各地のオーケストラとも多くのコンサートで共演している。[CD11-059解説]

---

### 江黒真弓 *えぐろ, まゆみ*

桐朋学園大学ピアノ科を卒業後、アムステルダム音楽院でホッホランドにフォルテピアノを師事、2013年からアントワープ音楽院でフォルテピアノを教えるかたわら、ソリストとして活躍。[CD81-956]

<http://www.egurodental.com/piano/aboutme.html>

---

### 小倉貴久子 *おぐら, きくこ*

東京芸術大学大学院ピアノ科修了。アムステルダム音楽院に留学。帰国後、各回ごとにテーマを定めた室内楽演奏会「モーツァルトの生きた時代」などのユニークなコンサートシリーズを展開。[下記ホームページ]

<http://kikuko-mdf.com/>

---

### オールト, バルト・ファン *Oort, Bart van*

フォルテピアノ奏者。フォルテピアノをスタンレー・ホッホランドに学ぶ。[下記ホームページ]

<http://www.bartvanoort.nl/>

---

### 金子陽子 *かねこ, ようこ*

モダンピアノとフォルテピアノ両方で幅広い活動をしているパリ在住のピアニスト。桐朋女子高校音楽科、同大学にて大島久子、高柳朗子、徳丸聡子の各氏に師事。パリ国立高等音楽院にてピアノをイヴォンヌ・ロリオ、ミシェル・ベロフの各氏に、室内楽をジャン・ムイエール氏に学ぶ。1993年にパリ音楽院に創設されたインマゼール氏のフォルテピアノのクラスの初代生徒となる。[下記ホームページ]

<http://vokokaneko.wordpress.com/>

---

### コーエン, パトリック *Cohen, Patrick*

フランス生まれの鍵盤奏者。[CD05-154]

---

### 小島芳子 *こじま, よしこ (1961-2004)*

桐朋学園大学ピアノ科卒業。1985年オランダのデン・ハーグ王立音楽院に留学。帰国後、東京でのリサイタルをはじめ、東京バツハ・モーツァルト・オーケストラとの共演、福岡古楽音楽祭に出演するなど、ソリスト、室内楽プレーヤーとして演奏活動を行う。[下記ホームページ]

<http://www.oshirase.com/yoshiko/>

---

### コープマン, トン *Koopman, Ton (1944-)*

オランダのハープシコード、オルガン奏者。ハープシコードをグスタフ・レオンハルトに、オルガンをシモン・C・ヤンゼンに学んだ。独奏者としての演奏活動のほか、「ムジカ・ダ・カメラ」、「ムジカ・アンティクワ」などの団体を組織し主宰している。[E]

<http://www.tonkoopman.nl/>

---

### コーリ, ジョン *Khouri, John (1944-)*

フォルテピアノ奏者。

---

### 崎川晶子 さきかわ, あきこ

桐朋学園大学ピアノ科卒業。ベルギーにてチェンバロに開眼し、シャルル・ケーニッヒ、渡邊順生、パリの古楽器コンセルヴァトワールでノエル・スピース、フォルテピアノをパトリック・コーエンに師事。ドレスデン・カンマーゾリステン、デイヴィッド・トーマスなど、外国アーティストとも共演。[下記ホームページ]

<http://sakikawaakiko.com/>

---

### シフ, アンドラーシュ *Schiff, Andras* (1953-)

ハンガリーのピアニスト。リスト音楽院でカドシャ・パールとフェレンツ・ラドシュに師事する。またチェンバロをイギリスのジョージ・マルコムに学んだ。シフはスタンダードな古典派、ロマン派のレパートリー以外に、現代音楽やバッハにおいても名声を得ている。また、室内楽奏者としても活躍が目覚ましい。[N]

---

### シュタイアー, アンドレアス *Staier, Andreas* (1955-)

ドイツのハープシコード奏者、ピアニスト。ハープシコードをグスタフ・レオンハルトに学ぶ。1983年から86年までムジカ・アンティカ・ケルンのチェンバロ奏者として活躍した後、ハープシコード、フォルテピアノ奏者として活動を始めた。[N]

<http://andreas-staier.de/index.htm>

---

### シヨルスハイム, クリステイーネ *Schornsheim, Christine*

古楽の分野のスペシャリスト。ペーターシュライヤーらと共演。2002/2003年にミュンヘンで教えていた。  
[下記ホームページ]

<http://www.christine-schornsheim.de/>

---

### ジョンソン, ジャニーヌ *Johnson, Janine*

フォルテピアノ奏者。[CD20-082]

---

### スグリッツィ, ルチアーノ *Sgrizzi, Luciano* (1910–1994)

イタリアのハーブシコード奏者、ピアノ奏者、作曲家。フレスコバルディからモーツァルトに至るイタリアを中心とする作品が主たるレパートリーで、これらの曲の楽譜校訂なども行っている。[E]

<http://isebestven.org/sgrizzi/>

---

### セラシ, キャロル *Cerasi, Carole*

トルコ系の両親のもとに、スウェーデンで生まれた。[下記ホームページ]

<http://www.carolecerasi.com/>

---

### タン, メルヴィン *Tan, Melvyn* (1956–)

イギリスのハーブシコード、ピアノ奏者。1974年にはロンドンの王立音楽大学でピアノとハーブシコードの研鑽をつんだ。1977年にデビュー、以来主要オーケストラと共演するなど演奏会や放送に活動を始めた。[E]

<http://www.melvynatan.com/>

---

### ティルニー, コリン *Tilney, Colin* (1933–)

イギリスのハーブシコード奏者。1960年代初めから、イギリスとヨーロッパ大陸で独奏者やアンサンブル奏者として活動した。ティルニーのレパートリーは広く、16世紀から18世紀までのヨーロッパの主な楽派の音楽に及んでいるが、とくにイギリス音楽に重点が置かれている。[N]

---

### デームス, イェルク *Demus, Jorg* (1928–)

オーストリアのピアニスト。1940年から45年までウィーン音楽アカデミーでピアノと指揮を学ぶ。1953年にウィーンでデビューし、オーストリアの戦後世代のピアニストのなかでも最も傑出した一人となった。古い鍵盤楽器に関心が深く、カークマン作の2手鍵盤ハーブシコード、ブロードウッドの1803年製ピアノ、クレメンティの1810年製ピアノ、コンラート・グラーフの1839年製ピアノを含む見事なコレクションを所有している。[N]

---

---

**デュツチャー, ウルスラ *Dutschler, Ursula***

スイスのピアニスト。ベルン音楽院を1987年に卒業したのち、ケネス・ギルバートにハーブシコードを、マルコム・ビルソンにフォルテピアノを学ぶ。[CD34-073/077解説]

---

**ドミトリエヴァ, マーシャ *Dimitrieva, Masha***

ロシアのピアニスト。モスクワ・チャイコフスキー音楽院を卒業後、20代前半からドイツに渡り、ハノーファー音楽演劇大学でダーフィット・ヴィルデ門下に卒業免状を取得、さらに往年の巨匠エートヴィン・フィッシャーの弟子として知られる伝説的名手コンラート・ハンゼンにも学び、強い感化を受けた。[CD81-219解説]

<http://www.masha-dimitrieva.com/>

---

**ニコルソン, リンダ *Nicholson, Linda* (1955-)**

イギリス生まれのフォルテピアノ奏者。1978年からロンドン・フォルテピアノ・トリオのメンバー。[I]

<http://www.lindanicholson.co.uk/>

---

**ニューマン, アンソニー *Newman, Anthony* (1941-)**

アメリカのハーブシコード奏者、オルガン奏者。パリのエコール・ノルマルでオルガンをピエール・コシュロー、ピアノをコルトーに師事。さらにハーヴァード大学でオルガンをエドガー・ヒリヤーに、作曲をルチアーノ・ベリオに学んだ。[E]

<http://www.anthonynewmanmusician.org/>

---

**ハッキラ, トウイヤ *Hakkila, Tuja***

卓抜した技巧とユニークな活動で知られるフィンランドの女流鍵盤楽器奏者。シベリウス・アカデミーでピアノをリーサ・ポホヨラとエーロ・ヘイノネンに学び、更にパリ音楽院に進んだ。[CD44-235解説]

<http://www.tuijahakkila.info/>

---

### **バドゥラスコダ, パウル *Badura-Skoda, Paul* (1927-)**

オーストリアのピアニスト。ウィーン音楽院でヴィーオラ・テルンにピアノと指揮を学ぶ(1945~48)。さらにルツェルンでエトヴィン・フィッシャーのマスタークラスに入り、彼から多大な影響を受けた。コンサートでは、歴史的鍵盤楽器への関心を共にするイェルク・デームスと組んで何度かピアノ二重奏を行った。バドゥラスコダ自身は、シャンツ、ブロードウッド、グラーフ、シュナイダー作の楽器のコレクションを所有している。これらの古楽器の使用や作品解釈、楽譜の校訂版の比較研究を通じて、作品が書かれた当時の原典と音色の復元に努めている。[N]

<http://www.badura-skoda.com/>

---

### **平井千絵 ひらい, ちえ (1974-)**

桐朋学園大学ピアノ科在学中に、故小島芳子氏の演奏を通じてフォルテピアノと出会い、卒業後同氏に師事。その後、オランダのデン・ハーグ王立音楽院古楽器科へ留学し、スタンリー・ホッホランド氏に師事して、修士課程を首席で卒業している。[CD39-951解説]

<https://chiehirai.com/>

---

### **ビルソン, マルコム *Bilson, Malcolm* (1935-)**

アメリカのピアニスト。コーネル大学で教えるかわら、アメリカを代表するフォルテピアノの演奏家として国際的に活動している。[N]

---

### **ビンズ, マルコム *Binns, Malcolm* (1936-)**

イギリスのピアノ奏者。リサイタルでは18~19世紀の各種のピアノから作品の時代に近い楽器を選んで演奏している。[E]

---

### **フェーンホフ, アンネケ *Weenhoff, Annake***

オランダの古楽鍵盤奏者。オランダ王立デン・ハーグ音楽院でバルト・ファン・オールトにフォルテピアノ奏法を師事。トリオ・ファン・ヘンゲルの中心メンバーとして活躍。[CD81-216]

<http://www.annekeveenhoff.nl/Welkom.html>

---



**フラー, リチャード *Fuller, Richard***

フォルテピアノ奏者。アメリカ生まれ。ハープシコードとフォルテピアノをサンフランシスコとウィーンで学ぶ。  
[下記ホームページ]

<https://www.richardfullerfortepiano.at/>

---

**ブライトマン, デイビッド *Breitman, David***

アメリカ、オーバリン大学古楽器科准教授。ピアノとフォルテピアノの独奏者、室内楽奏者。  
[オーバリン大学ホームページより]

---

**ブラウティガム, ロナルド *Brautigam, Ronald* (1954-)**

オランダのピアニスト。ブリュッヘン、トン・コープマンらとの共演により、フォルテピアノに対していっそう興味を深めた。[N]

<http://www.ronaldbrautigam.com/>

---

**ブルンナー, ウォルフガング *Brunner, Wolfgang***

ザルトツブルク・モーツァルテウム(1982-1986)で、ニコラス・アーノンクールに学ぶ。[CD15-745解説]

---

**ベギン, トム *Beghin, Tom* (1967-)**

ベルギーのルーヴェン生まれ。フォルテピアノ奏者。カナダ、モントリオールのマギル大学音楽学部准教授として、音楽史、フォルテピアノを担当している。[マギル大学ホームページより]

---

### ベズイデンホウト, クリスティアン *Bezuidenhout, Kristian* (1979-)

南アフリカに生まれる。オーストラリアで勉強を始め、イーストマン音楽学校を最優秀の成績で卒業。モダン・ピアノをレベッカ・ペニーズに、チェンバロをアーサー・ハースに、フォルテピアノをマルコム・ビルソンに、通奏低音をポール・オデットに師事。[CD42-918解説]

<http://kristianbezuidenhout.com/>

---

### ヘニゴワ, アレナ *Honigova, Alena*

プラハ音楽アカデミーでハーブシコードを学んだ後、バーゼル・スコラ・カントルムで、ハーブシコード、フォルテピアノ、通奏低音奏法、即興演奏法について学んだ。[CD81-978]

<http://www.alenahonigova.com/index.php/de/>

---

### ベルダー, ピーター・ヤン *Belder, Pieter-Jan* (1966-)

ハーブシコード・古楽鍵盤奏者、指揮者、リコーダー奏者。[下記ホームページより]

<https://www.pieterjanbelder.nl/>

---

### ヘーレン, ハラルト *Hoeren, Harald*

ハーブシコード奏者。ケネス・ギルバート、グスタフ・レオンハルトに学ぶ。[CD15-625解説より]

---

### ホグウッド, クリストファー *Hogwood, Christopher* (1941-2014)

イギリスのハーブシコード奏者、指揮者。ケンブリッジ在学中からハーブシコード奏者としてデヴィッド・マンローとしばしば共演していたことから、1967年に古楽コンソートの創立メンバーとなる。1973年に古楽アンサンブルのエンシェント室内管弦楽団を創立し、歴史的解釈に基づきバロックおよび初期古典派音楽の演奏を指導している。[N]

<http://www.hogwood.org/>

---

---

**ホッホランド, スタンリー *Hoogland, Stanley***

ソリスト、また室内楽奏者として、ヨーロッパ、アメリカ、オーストラリア、日本で演奏活動を行っている。フォルテピアノ奏者として先駆者のひとりであり、[19]70年代のはじめからアンナー・ビルスマ、ヴェラ・ベスらと共演で数多くの録音を行った。[CD80-428解説]

<http://www.stanleyhoogland.com/>

---

**ホルヴァート, アニコー *Horvath, Aniko***

ハンガリーのハーブシコード奏者。1970年からハーブシコードを始め、1973年プラハでズザナ・ルージチコヴァーの講習会に参加、その後ブラティスラヴァの音楽学校で同女史に師事した。[E]

---

**マストロプリミアーノ, コンスタンティーノ *Mastroprimiano, Constantino***

演奏家、教師、研究者。イタリアのフォッジア音楽院で学位を取得。クレメンティ全集(Ut-Orpheus 出版)を監修。ペルージャ音楽院で室内楽の教師を務める。[CD30-768解説]

---

**マルティノフ, ユーリ *Martynov, Yury (1969-)***

ロシア出身のピアニスト。モスクワ・チャイコフスキー音楽院でレフ・オボーリンの系譜に連なるロシア・ピアノリズムの巨匠、ミハイル・ヴォスクレセンスキーに師事。その後、フランスに渡ってイルトン・ヴェニススキ門下にチェンバロと通奏低音奏法を本格的に学んだ。[CD40-807解説]

<https://yurymartynov.com/>

---

**メニカ, ツヴィ *Meniker, Zvi***

イスラエルのハーブシコード、フォルテピアノ、オルガン奏者。独奏者、室内楽奏者として、イスラエル、ヨーロッパ、米国で活躍。ライプツィヒのメンデルスゾーン音楽院でハーブシコードと室内楽を教える。[CD34-073/077解説]

---

---

**ラトコ, アグネス *Ratko, Agnes***

ブダペスト音楽院で、アニコー・ホルヴァートにハープシコードを師事。ハンガリーおよびヨーロッパ各国で独奏者、室内楽奏者、バロック・アンサンブルのメンバーとして活動。2003年より、ブダペスト音楽院で通奏低音の教師を務める。  
[CD26-917解説]

---

**ランペ, ジークベルト *Rampe, Siegbert* (1964-)**

ドイツ、プフォルツハイムの生まれ。ハープシコード、フォルテピアノ、オルガンの独奏者、室内楽奏者。またヨーロッパ、日本、ロシア、米国で指揮者としても活動。[MDG ホームページより]

---

**リュビモフ, アレクセイ *Lubimov, Alexei* (1944-)**

モスクワ生まれ。モスクワ音楽院ではハインリヒ・ノイハウスに、その死後はレフ・ナウモフに師事した。ピアノのほかに、オルガンやハープシコードも演奏し、室内楽奏者としても活躍している。[E]

---

**ルセ, クリストフ *Rousset, Christophe* (1961-)**

1961年にアヴィニオンで生まれたフランスの鍵盤楽器奏者、指揮者である。ケネス・ギルバート、ボブ・ファン・アスペレン、クイケン兄弟、グスタフ・レオンハルトらに学び、83年にブルージュ国際チェンバロ・コンクールに優勝。その後クリスティ率いるレザール・フロリサンの通奏低音奏者として活躍。91年に指揮者としてもデビュー。同年、自らの古楽アンサンブル「レ・タラン・リク」を創設し、各地の音楽祭などでバロック・オペラをはじめとする多数の楽曲を演奏、録音し、国際的に高い評価を得ている。[CD21-830解説]

---

**レヴィン, ロバート *Levin, Robert* (1947-)**

アメリカのピアニスト、音楽学者。フォルテピアノによるモーツァルトの演奏家として知られ、クリストファー・ホグウッドのエンシェント室内管弦楽団と多くの協奏曲を録音した。[N]

---

**渡邊順生 *わたなべ, よしお* (1950-)**

ハープシコード奏者。1971年からアムステルダム音楽院でアンネケ・アウテンボッシュ、グスタフ・レオンハルトにハープシコード、ヴェロニカ・ハンペとトン・コープマンに通奏低音の指導を受ける。1978年より日本各地でリサイタルと室内楽に活躍し、古楽器による演奏会シリーズなどに出演している。[E]

<http://www.cembalo.com/>

---